

# 野津道夫

5月23日 オン・ステージ

白井音楽倶楽部(松川輝男会長)は5月23日(土)、ジャズ・トランペッターの野津道夫を迎えて第15回ライブを行う。演奏はスタンダード・ナンバーが中心で、中山雅世(ピアノ)、秦野格(ベース)、岡野滝夫(ドラム)が共演する。2度目の出演となる中野幸代(ヴォーカル)がスペシャル・ゲスト。

【会場】ワークス・カフェ(北総線 西白井駅南口ロータリーから無料送迎車あり。希望者は午後5時半に集合)。「開演」午後6時、「特別料金」3千円(ワンドリンクとオーガニック素材の軽食付き)。ドリンクは、オーガニックのビール、ワイン、コーヒ、紅茶、りんごジュース。追加の飲食代は自己負担。「予約・問合先」電話090・8460・7301(松川) / 090・1800・7002(幸正)

## トランペットがクールにスタンダードを奏でる!

白井音楽倶楽部

【野津道夫】1958年、島根県出雲市生まれ。中学の吹奏楽部でトランペットを始め、早稲田大学時代にモダンジャズの虜になり、ジャズ喫茶に入り浸る。卒業後は銀行勤務の傍ら演奏活動を続けていた。07年に「浅草ジャズコンテスト」のソロ部門でグランプリを獲得。現在、東京都内を中心にライブ活動を続ける。



野津道夫

## 「こうしよう」の「幸正じゅんじ」の提案箱

3月議会で当初予算が審議され、可決されました。市民に関係する主な事業を列記しましょう。

駅前駐輪場整備

医療費の助成(所得制限あり)、妊婦健診に対する助成回数が増え5回から14回に拡充、第三小学校校舎改修工事の実施



## これからの議会は政策立案も積極的に

「立体化」を極力抑えて平置き式を採用したこと、約2億円の事業負担を軽減、第一地区のコミュニティセンターの美設計、南山保育園が完成し、一時保育事業も推進、手狭になった大山口第2学童保育所の実設計、小学生の入院

計、災害時の避難場所として指定されている第一小・第二小・大山口小の体育館耐震工事が行われ、南山小体育館では耐震工事の実設計、市民グラウンドを廃止・売却し、運動公園内に多目的運動広場を新設。

千円ほど取り崩しているという事実です。予算の総括質疑に立つた私は、このことを質問しました。「21年度末で約14億5千万円の残高だが、今後は最低限10億円は次年度以降の財政調整のために残しておきたい」という回答でした。

**提案箱へのご質問はメールで**

shiroi-t@nifty.com



第23回白井シネマサークル(エヌ・アイ・エスが主催)は5月3日(日)、白井市文化会館大ホールでニコル・キッドマンとヒュー・ジャックマンが競演した映画「オーストラリア」(バズ・ラーマン監督)を上映する。

上映時間は午前(午前10時15分)午後(午後1時)と午後(午後1時15分)4

## 国際親善ミニサッカー大会

5月17日

第4回国際親善ミニサッカー大会が5月17日(日)、白井運動公園の陸上競技場で開催される。主催は白井市と白井国際交流協会、白井サッカー協会と日立柏レイソルが協力する。

午前9時半に開会式が行われ、10時にキックオフ。キッズ・サッカー教室、サッカーのデモンストラクションや子供の試合も実施される予定だ。

小雨決行。「連絡先」白井国際交流協会事務局(電話047・445・3345)

## 柳家三之助らが5月17日に

白井落語講談会は5月17日(日)、「第29回白井街かど落語」を開催する。「出演」柳家三之助、春雨や風子、林家楽一(開演)午後2時半【会場】御食事処「むらさき」(北総線・西白井下車徒歩5分)。「入場料」2千円(白井落語講談会・NIFSパッピー倶楽部会員は千五百円)

北総会舞踊民謡発表会 6月21日

北総会(馬場崎隆三会長)が6月21日(日)、市文化会館大ホールで舞踊民謡発表会(後援)北総民謡舞踊連合会)を行う。午前10時から夕刻まで。入場無料。先着2百名に粗品進呈。

## 博人館



## 中村祥之さん

中国名・陳之祥 (鍼灸整骨院経営)

中村さんは「陳之祥」という中国名も持っている。かつて中国人だったから。と、本人が半分入って、日本人の血が半分入って、日中村さんは1949年、中国・天津で生まれた。母親は日本人、父親が中国人である。「母方の祖父は満州で電力会社の経営陣の1人でした。母は大連で生まれたんです」。

長崎の活水女学院でピアノを学んだ母親は、新(京現・長春)に戻るが、日本は敗戦。進駐したソ連軍に、祖父はシベリアに抑留された。日本軍を武装解除するため、国民党の代表団が新(京現・長春)にやって来た。その中に陸軍の技術将校がいた。「黄埔軍官学校出身のエンジニアです。その人と母が出会って結婚した。長春から天津に移った。で、私が生まれたんです」。

中村さんが生まれた年に中華人民共和国が誕生した。父親は国民党将校だったけど、最初はそんなに問題にされず、通信関係の工場で技術者として働く。母親も音楽大学でピアノと声楽を教えるために、1960年代に文革の嵐が荒れ狂った。父親は工場ごと河北省の山奥に移住させられた。母親は天津近郊の農場に大学の同僚たちと一緒に下放される。

中学を卒業した中村少年も内モンゴルの人民公社に下放された。16歳のときである。同じ都会から来た10人の少年たちが、住民百人ほどの村で共同生活するのだ。「トウモロコシや大豆、ジャガイモをつくったり、馬や羊を放牧させるのが仕事です。朝は3時に起きてコーリヤンやトウモロコシのパンを食べ、4時から夜の8時まで働かされた。電気も水道もない生活だったけど、まだ若かったから元気が良かった」。

村に来て3年目、中村さんは村長に立候補し、見事トップ当選を果たす。「いろいろアイデアを出して、村が活気づきました。でも、あまり良い成績を残すことが出来なかった。そこで、1972年、天津市第二医学院(現・天津医科大学)に入学する。卒業後、天津骨科医院の整形外科医として働く。「ベットの数は00百のうち整形科のベッドは550もあつた。整形外科ではトウモロコシの病院です」。

中村さんはスポーツ整形が専門だったので、天津のサッカー・チームの専属ドクターでもあつた。有名なスポーツ選手と知り合う機会も多く、「中国の卓球チャンピオンからラケットをも

らった」こともある。仕事にも恵まれ、経済的には何となく自由のない生活だった。が、「母が日本に帰りたいがっつたんです。1980年、母親、弟、そして中村さんの3人が先に一足先に来日。兄と妹は残った。翌年、先に来日していた夫と結婚し、1男1女をもうける。

「家内の父親は戦前、東京帝大医学部に留学していたです。だから、私たちがより早く日本に来ていたんです。義父は長野県野原の総合病院で副院長をしていたが、中村さんはスパーの精肉コーナーで肉を切る仕事。整形外科医だったから肉を切るのは得意ですよ。ハハハ」。

給料が安かったが、生活を切り詰めた。鍼灸と骨接ぎの学校にそれぞれ3年ずつ通った。授業料が60万円もかかった。来日して8年目の1988年、東京・品川区東五反田に中国医療センターを開院し、義父が院長に就任した。

1996年に松戸市六実に「祥和鍼灸整骨院」を、そして3年前に新鎌ヶ谷院をオープンするなど経営も順調だ。日本国籍も取得。六反田は今年3月に閉院し、新鎌ヶ谷院に統合された。西白井駅前のマンションを住まいに、東五反田と新鎌ヶ谷を行き来する日々。が、暇があるとならぬと汗を流し、カラオケにも興じる。楽しい「元中国人」だ。

## 文革を体験したエリート整形外科医 母の祖国で鍼灸整骨院を開設